

**武器ではなく、命の水を**

アフガニスタンで医師として従事しながら、1600本の井戸を掘り、さらに農業用水路を建設し、砂漠化し荒廃した土地16000ha以上を緑に甦らせ、多くの命を救った医師、中村哲さんが12月4日に銃撃により亡くなりました。



2017年の第6回オーガニック映画祭 in 大阪で、中村哲さんの映画「アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和」を上映したご縁で、告別式の案内を頂きましたので、福岡まで最後のお別れに行ってきました。

年に一度は帰国し、講演をしていたのに、実際にお会いする前に帰らぬ人となってしまったのは、本当に残念でなりません。

「仕事（農業）と食べ物があれば、だれも戦争なんかには行かない。」という言葉と、砂漠が農地に生まれ変わり、嬉しそうに大地を耕し家族揃って食事をしているシーンは、今でも忘れられません。そんな映画のシーンを思い出しながら会場入りすると、公にしていないのにも関わらず、1000人収容の会場から人が溢れて、入りきれない状態でした。

ペシャワール会会長の弔辞の中に、いつか先生が「敵を作らない。アフガンには、良い人も悪い人もいる。が、それを含めて共に生きる。」と話されていたとの言葉に、銃撃した人の罪は重いけど、でもそれをさせてしまった社会の方が、もっと罪は重いのかも知れないと思いました。

小中、高校、大学のご友人、幼いころから通っていた教会の牧師さんなどが弔辞を述べられ、まだ「てっちゃん」と呼ばれていた頃の方々と73歳の今まで、友達として、また支援者として絆があることに、中村哲さんのお人柄がよくわかりました。昔から、深い思いやりがあり、こんな偉業を成し遂げながらも、腰が低く、いつも穏やかで決して威張らない。人を理解する深い洞察力の持ち主だったと仰っていました。

「中村哲医師の亡き後も、ペシャワール会は、意志を守り事業継続に全力を上げます。」とのこと。私にも出来ることをと思い、**2月中旬に「中村哲さんの追悼上映会」を開催します。**ぜひ多くの方にこの取り組みを知って頂き、支援の輪を広げたいと思います。どうぞ、皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。詳細は、決まり次第お知らせいたします。 【管理栄養士 坂東武子】